

法人所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型（滑空機）JA21YPの
航空事故調査について
（経過報告）

令和7年10月2日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和6年10月26日、長野県長野市の長野市滑空場付近の草地において法人所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型JA21YPが着陸する際、胴体外板を損傷した航空事故について、令和6年10月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報を基に、更に分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本調査については、本航空事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり本調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本航空事故の責任を問うために行うものではない。

1. 航空事故の概要

法人所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型JA21YPは、令和6年10月26日（土）、長野県長野市の長野市滑空場付近の草地に着陸する際、胴体左外板を損傷した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和6年10月26日、本航空事故の調査を担当する主管調査官ほか1名の航空事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、航空機の調査、事故現場の調査等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

（1）飛行の経過

同機は、緊急操作訓練（ウインチえい航中に低高度でウインチが停止した場合に備えた訓練）を実施するため、訓練生が前席、教官が後席に着座し、13時50分、同滑空場を発航した。

同機は、ウインチ停止後にえい航索を切り離し、降下した。同機は、滑走路終端を越え、左旋回したところ、左主翼が草木に接触したことで、左に回転しながら接地し、草木に衝突して停止した。

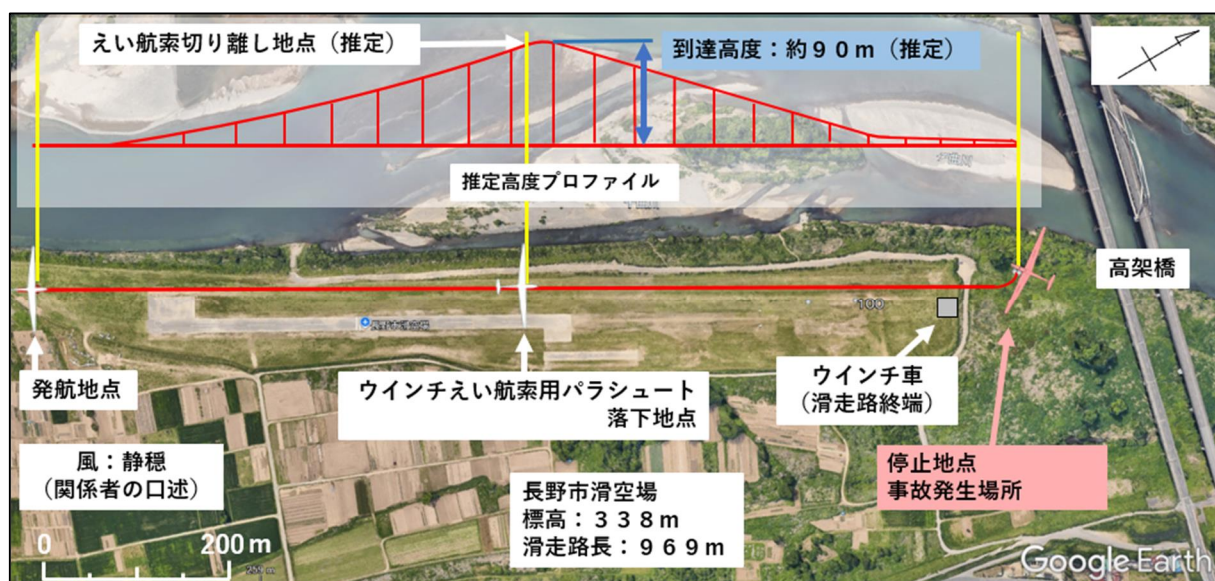


図1 推定飛行経路

(2) 死傷者

なし

(3) 航空機の損壊

中破: 胴体左外板に亀裂、左主翼前縁に亀裂、後部座席風防が破損



図2 主要な損傷状況 (胴体左外板)

(4) 気象

長野市滑空場の北西約6.5kmにある長野地方気象台における本航空事故発生時間帯の平均風速は、東1.5m/s、最大瞬間風速は、北北東2.2m/sであった。

4. 今後の調査

本航空事故の原因及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報を基に、滑走路ではなく滑走路前方の草地に接地した経緯など、更なる分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

当委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等の調査を進める。